

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

# 六字城

ROKUJIJO

2023/10/1

No.707

大阪市北区東天満 1-8-26  
06-6351-3535  
http://www.tenma-betsuin.jp  
代表者 輪番・武宮 信勝

Shinran  
500



祖師前 真向きの親鸞聖人御真影

## 報恩講

親鸞忌七六二年

武宮 信勝

～南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう～

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要（慶讃テーマ）

過日、自坊秋の彼岸会法要のため田舎に帰らしても  
らった。あちこちの田んぼのあぜ道に「彼岸花」が赤い  
血が燃えるように咲いていた。例年になく沸騰するよ  
うな酷暑が続いた折にも拘わらず、「めげずによくこそ  
咲いてくれたねえ」と独り言。  
夕食時若院が、「明日、大阪の○○さんが墓じまいに  
来るといふ連絡がきてますので、よろしく。」と頼まれ  
ました。その方は松島で生まれ、両親を残して就職列車  
で大阪へ。いわゆる団塊の世代であります。正月・お盆  
の時期は、ほぼ田舎に帰省してました。しかしながら  
8年前に父親が亡くなり、5年前に母親が亡くなり、今  
は空き家同然の大きな屋敷が遺されたまま。  
久しぶりにお寺でお会いし、少しくお話をしました。  
大阪で知り合った関西の方と結婚し、娘2人も成長しお  
嫁に行かれたそう。12年前、仕事も停年退職し今では  
奥様との老人2人暮らし。田舎に帰りたいと思うけど高齢  
になりもう帰れないのです。それで墓じまいをして、ご  
先祖の遺骨をお寺の永代納骨堂に納めて欲しいとのこと  
でした。このような話は、今や日本全国各地で日常的に  
聞かれています。

先日、朝日新聞「時時刻刻」欄見出しに「墓じまい  
されず、参る人もおらず、草木伸び放題」が目止まり、  
「無縁墓積もる悩み」が特集されてきました。昨年の国  
内の死亡者は過去最多の150万人を超えたという。高  
齢化し、地縁、血縁が薄れる中で、墓の守り手がおらず「無  
縁墓」となるケースが急速に目立ちはじめ、弔いの風景  
が変わりつつあるという。

【次ページに続きます】

「誰のために、私一人のために」

## 法要・行事予定

10月			11月		
2日	真如上人御祥月御命日	(8時)	4日	達如上人御祥月御命日	(8時)
	～報恩講～	(3～5日)	12日	闍如上人御遠夜・常永代経	(14時)
3日	遠夜	(13時30分)	13日	闍如上人御命日 兼日中	(8時)
4日	晨朝	(7時)	24日	顕如上人御祥月御命日	(8時)
	日中	(10時)		定例法話	(13時30分)
	結願遠夜	(13時30分)		越本 達了師	(第5組専光寺)
5日	結願晨朝	(7時)	27日	宗祖聖人御正忌御遠夜	(14時)
	報徳会(音楽法要)	(10時30分)	28日	本山御正忌団体参拝	(7時30分出發)
	教如上人御祥月御命日			宗祖聖人御正忌晨朝	(8時)
	結願日中	(13時30分)		宗祖聖人御正忌日中	(10時)
12日	闍如上人御遠夜・常永代経	(14時)	<p style="text-align: center;"><b>天満別院報恩講</b></p> <p style="text-align: center;"><b>10月3・4・5日</b></p> <p style="text-align: center;">皆さまのお参りをお待ちしております</p>		
13日	闍如上人御命日 兼日中	(8時)			
14日	巧如上人御祥月御命日	(8時)			
27日	宗祖聖人御遠夜	(14時)			
28日	宗祖聖人御命日 兼日中	(8時)			
	法話：輪番 武宮 信勝				

生活の中で  
念仏するのではなく  
念仏が  
生活になるのです

—宮城 顛—

編集後記  
報恩講の時期となりました。一年の  
集大成というべき大切な法要がござい  
ます。毎年変わらず本堂いっばいに響  
き渡る素晴らしい声明や、またそれに  
携わることには大変有難いことござい  
ます。  
皆様もお忙しいとは存知ですがどう  
ぞ別院へお参りくださいますようお願い  
申し上げます

(K)

報恩講お手伝いのお願い

来る10月3日(火)～5日(木)、  
例年の如く天満別院報恩講が勤修され  
ます。つきましてはご門徒の皆様にお  
手伝いをお願いしたいと存じます。半  
日だけでも構いません。ご参加いただ  
きますようお願い申し上げます。

日程 10月4日(水) 9時～17時まで  
10月5日(木) 9時～17時まで

今月の伝道掲示板

本山（東本願寺）御用達

**(株)平安法衣舎**

〒600-8153  
京都市下京区東町本願寺大門前  
電話 (075)-351-3681  
FAX (075)-351-5563

おかげさまで**創業120余年**  
あなたの街の石やさん

**株式会社 太田石材店**

～仏事その他何なりとお気軽にご相談ください～

0120-305-075

本社  
〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号  
TEL 06-6930-5075 FAX 06-6930-5078

もはや墓じまいならず無縁墓化時代に突入しているという。

当別院墓地でも、年々歳々墓じまいの方が増加傾向。合祇墓に納める方が後を絶たない。何かもの悲しいような社会変化をどのよう

に受け止めたらいいのでしょうか。私達は、「誰のためのお墓であるのか」を一大事として問い直してみる時期がきているのではないだろうか

と痛感します。首都圏教化推進本部員の海 法龍氏が墓の本来の意味を回復したいと願って「お墓が、ただ単にお骨をおさめるだけでなく、死を悼み悲しんで礼拝しただけでなく、お墓が「帰命」という意味をもち「南無阿彌陀仏」あるいは「俱舎一処」と刻んで念仏申してきたのです。それが親鸞聖人のお心になつた「真宗の本尊」としてのお墓です。だからお墓は誰のためにあるのかという

報恩講ご参拝へのお願い

今年の春、御本山で親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要が厳修されました。「人と生まれたことの意味をたずねていこう」というテーマの基、全国各地からたくさんのご門徒が参拝されました。「一人の念仏者の誕生」を願うことであったこと

でしよう。今法要が円成し新たなスタートを切りました。日常にある悩み、苦しみ、悲しみは私の身から決して無くなることはありません。むしろこの身の事実を通して私を愛し案じ敬って

まてくださる阿彌陀仏のご本願に気付かせていただきました。先師は「如来は我なり、如来我となつて我を救いたもう。されど我は如来にあらず」(曾我量深)と申されました。この用きに目が覚めた時如来の御恩徳を身を粉にして

Q&A

法事の時のお食事をなぜ御齋と言いつのですか？



答え

「御齋」とは単なる食事ではなく「仏事」であります。「齋」という言葉には、正しい、慎むという

意味があります。本来、不殺生という戒律を守った正しい、慎み深い僧侶の寺院での食事として精進料理

おとき

持ち寄り、調理していただいたお食事のことを「御齋」と言います。そして、お食事をいただきながら、お念仏に出遇った慶びを、その場に集まった方々と語り合います。

そのため、亡き人を偲びながら、飲んだり食べたりすることを「御齋」というわけではなく、「御齋」も仏事として、亡き人をご縁とし、仏様の教えに出遇う場として大切にして

今日も「御齋」の場合は、亡き人が仏事を通して集めてくださった人と人との繋がりを深め、コミュニティケーションの場となる

報恩講 日程

Table with 3 columns: Date, Time, Activity. Includes 10月3日(火) 13時30分 速夜 法話二席, 10月4日(水) 7時 晨朝, 10月5日(木) 7時 結願晨朝, 10月5日(木) 10時30分 報徳会(音楽法要), 10月5日(木) 13時30分 結願日中 法話一席.

親鸞さまに会いに行きましょう

今年の春には御本山で親鸞さまの御誕生850年、立教開宗800年の慶讃法要が厳修され、全国各地より延10万人の方々が御参拝されました。

来る11月28日は、親鸞さまが御命終されて761年。この日は報恩講最終日となり結願日中(御満座)において古来から当派のみに伝わる「坂東曲」の声明が勤まります。

お念仏と和讃を繰り返し体を力強く前後左右に動かしてのダイナミックな声明であります。共々この法縁にお会いしましょう。※詳細は同封した折り込みをご覧ください。

報告

秋季彼岸会 勤修

去る9月24日(日)秋季彼岸会並総永代経法要兼墓地納骨(物故者)追弔法要が勤修されました。御講師には、第15組西稱寺宮部渡師にお越しいただきました。

師は、安田理深先生の「本当のものがわからないと本当でないものを本当にする」という言葉を引用され普段の生活で本当のもの(仏智)を本当でないもの(理性)で考えてしまいそれは「煩惱具足の凡夫」であるためであります。私たちの体の奥底には阿彌陀様からの願いが確かにあり、そのことに気づくために生きていくことが大切なんだとおっしゃいました。



宮部 渡 師

別院門徒会として、団体参拝を左記の通り計画致しました。是非ご参加下さい。

記

日程 11月28日(火) 集合 7時15分までに 天満別院 本堂 出発 7時30分 参加費 1人5000円

